くまもとＳＤＧｓ
牽引部門

（西田精麦株式会社）

食品会社としてのSDGsの取り組み。健幸穀物の栽培を通じた途上国の貧困支援と地域社会との多様な連携の構築による持続的社会の実現

【取組み内容】

①途上国支援の取組：（契約栽培と栽培支援、フェアトレードの実施、農業技術や加工技術の移転、バリューチェーンの構築）

②食品会社としての取組：（フードロス対策やバイオパッケージへの転換、資材のアップサイクル、太陽光発電の導入）

③地域社会との連携・SDGs普及のための取組：（県産農産物の積極的な活用、地産地消の取り組み、被災地支援活動や事業実習生支援、SDGsセミナーや出前授業の実施、ロアッソ熊本への活動支援）

評価項目ごとの取組みの特徴・ポイント	
普遍性	途上国支援のロールモデルの構築を目的にJICAと連携し、幅広く普及可能なフードバリューチェーン事業を展開。
包摂性	途上国の中でも、特に貧しい農村地域で事業を実施。 熊本にいる途上国からの事業実習生への支援活動。
協働性	JICAの支援のもと、相手国政府、研究機関、行政機関、取引先などいろいろなステークホルダーとともに事業を行っている。
統合性	途上国の支援事業を軸としながらも、食品会社として出来るSDGsの取り組みを経済・社会・環境の各分野に派生させ行っている。
透明性	取材や講演、出前事業などで当社の取り組みを説明することで、様々な立場から意見、アドバイスを戴き、自社の取り組みを定期的に評価し、さらなる活動の深化につなげている。

貢献するＳＤＧｓのゴール